

直近の学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について

令和8年5月29日時点

	開催日時	開催形式(場所)	名称
1	6月3日(水) 10:00~17:30	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	公開シンポジウム「分野横断を活性化する『防災減災連携研究ハブ(JHoP)』が目指す持続可能でレジリエントな社会」
2	6月6日(土) 15:00~17:00	国立京都国際会館	共同主催国際会議 市民公開講座「日本内分泌学会×QuizKnock 特別講座～ホルモンって何?～」
3	6月7日(日) 13:00~16:00	オンライン開催	公開シンポジウム「海洋生物と気候変動③:考えるべき倫理」
4	6月7日(日) 10:30~12:00	トークネットホール 仙台	公開シンポジウム「レジリエンスを高める生体医学の最前線」
5	6月10日(水) 13:00~17:00	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	公開シンポジウム「研究者養成から社会実装人材へ — 博士教育の再設計」
6	6月11日(木) 12:00~13:30	オンライン開催	公開シンポジウム「生物の多様性と未来をつなぐ育種学ウェビナーシリーズ【第5回】育種成果の社会への橋渡し — 新品種の普及と制度の課題—」
7	6月11日(木) 13:10~17:10	ハイブリッド (自然科学研究機構 分子科学研究所)	公開シンポジウム「AI for Chemical Sciences」
8	6月13日(土) 13:00~14:40	オンライン開催	公開シンポジウム「動物の繁殖の研究ってこんなに広がるの! ? ~生命の連続性と栄養の関係~」
9	6月21日(日) 13:50~15:50	ウインクあいち	公開シンポジウム「脳と摂食嚥下のクロストーク ~健康長寿社会実現に向けた未来への道標~」
10	6月22日(月) 13:00~17:00	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	公開シンポジウム「若手アカデミー: 15年間の活動とこれからの展望」
11	6月24日(水) 10:00~16:00 6月25日(木) 10:00~16:50 6月26日(金) 10:00~16:40	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	公開シンポジウム「安全工学シンポジウム2026」
12	6月27日(土) 13:00~17:00	オンライン開催	公開シンポジウム「昆虫科学はおもしろい~国際昆虫学会議の記念誌が伝える昆虫科学の最前線~」
13	6月27日(土) 13:30~17:30	ハイブリッド (一橋大学)	公開シンポジウム第31回史料保存利用問題シンポジウム 「アーキビスト養成環境の現状と課題—専門職としての広がりのために—」

※諸般の事情により、内容等に変更が生じる可能性がありますので、学術フォーラム・公開シンポジウム等の参加前には日本学術会議ホームページを御確認ください。



## 分野横断を活性化する『防災減災連携研究ハブ(JHoP)』が目指す 持続可能でレジリエントな社会

防災減災連携研究ハブ(JHoP)は、防災・減災に関わる大学、研究機関、実務機関の20組織が連携し、災害リスクの軽減、持続可能な開発、気候変動適応という相互に関連する社会課題の統合的な解決を目指して活動するネットワークです。シンポジウムでは、JHoP 参画機関の登壇者が多様な実践を紹介するとともに、日本学術会議より2026年4月10日に発出された提言「壊滅的災害が想定されるメガシティの防災力強化に向けた科学技術イノベーション」とJHoPの4つの活動を掛け合わせて議論し、学術と社会をつなぐ防災減災の連携強化を目指します。

### JHoPを核とする、産官学民連携による研究推進・人材育成のネットワーク



### プログラム

#### 10:00 オープニングセッション

開催趣旨、JHoPの紹介：寶馨（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人防災科学技術研究所理事長）

#### 提言：壊滅的災害が想定されるメガシティの防災力強化に向けた科学技術イノベーションの概要

田村 圭子（日本学術会議第三部会員、新潟大学危機管理本部危機管理センター特任教授）

#### 10:40 第一セッション：災害にレジリエントな都市に向けた減災政策（第3章）× Scienceに基づく政策形成

進行：大原 美保（日本学術会議連携会員、東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター教授）

#### 13:00 第二セッション：防災情報の発信と流通（第6章）× 情報基盤の標準化

進行：栗林 大輔（IRDR 活動推進小委員会委員、国立研究開発法人土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター 上席研究員）

#### 14:30 第三セッション：都市防災の担い手（第7章）× 人材育成と教育体制強化

進行：平田 京子（日本学術会議連携会員、日本女子大学建築デザイン学部建築デザイン学科教授）

#### 16:00 第四セッション：メガシティの防災のための科学技術イノベーション（第8章）× 産学官民連携

進行：白田 裕一郎（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人防災科学技術研究所 総合防災センター長）

#### 17:20 おわりに：多々納 裕一（日本学術会議第三部会員、京都大学防災研究所社会防災研究部門 教授）

※各セッションではJHoP参加組織の登壇者が活動を紹介します。提言の実現に向けた取組みについてパネルディスカッションを行います。

日時：令和8年6月3日（水） 参加費無料

場所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）オンライン配信あり  
東京都港区六本木7-22-34

事前参加登録をお願いします。申込締切 5月27日（水）正午

申し込みサイト [https://www17.webcas.net/form/pub/bosai/jhop\\_0603](https://www17.webcas.net/form/pub/bosai/jhop_0603)

お問い合わせ：防災科学技術研究所 JHoP事務局 [info-jhop@bosai.go.jp](mailto:info-jhop@bosai.go.jp)

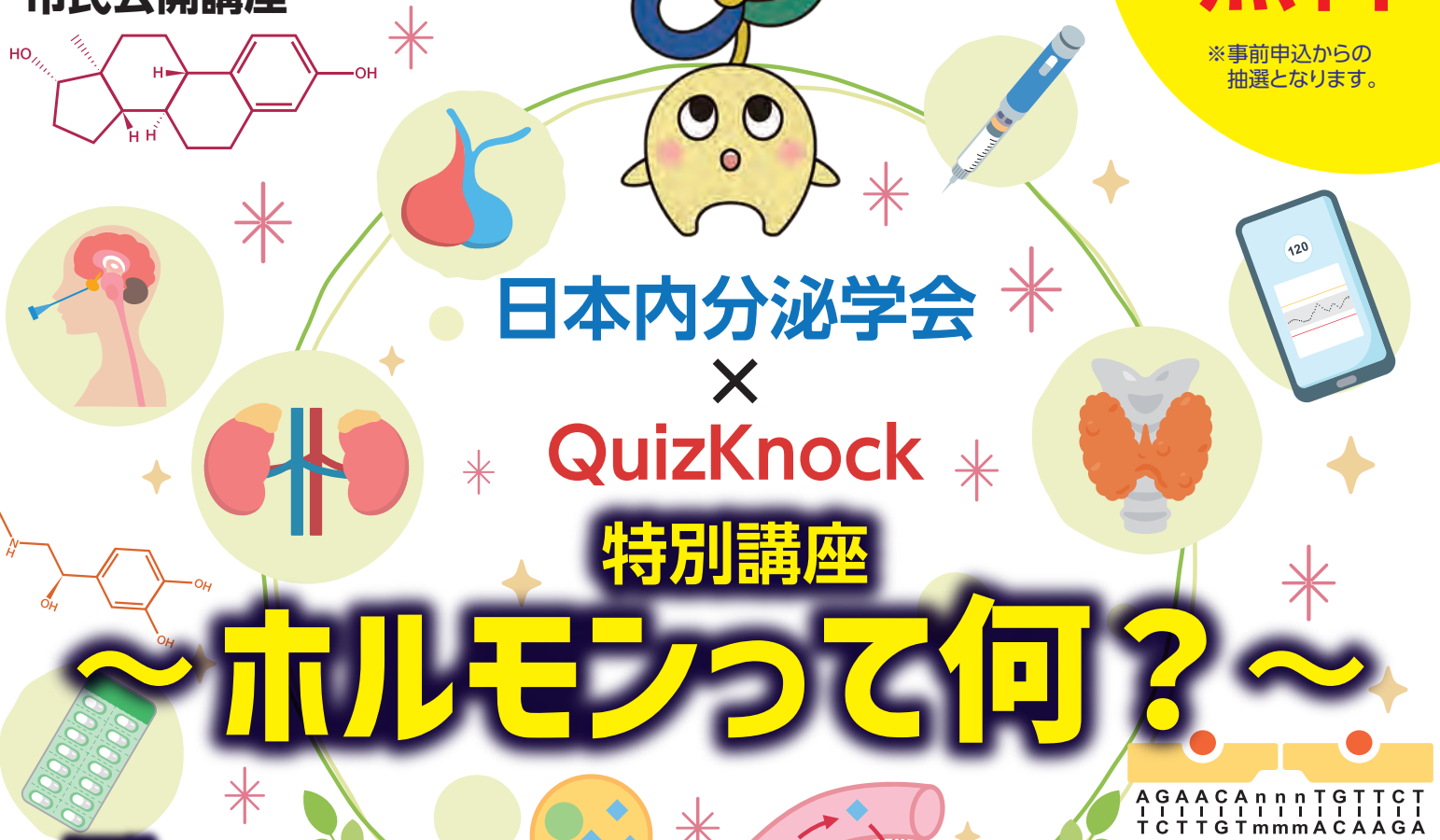
ICE2026/JES2026

日本内分泌学会 創設100周年  
市民公開講座



参加費  
無料

※事前申込からの  
抽選となります。



日本内分泌学会

×

QuizKnock

特別講座

～ホルモンって何？～

AGAACAnnnTGTTCT  
TTTTTTTTTmmACAAGA  
TCTTGTmmACAAGA

【日時】

2026年6月6日(土)

15:00～17:00(開場:14:00予定)

【会場】

国立京都国際会館  
メインホール

出演 伊沢 拓司・東言 (QuizKnock)

【開催概要】

「内分泌(ホルモン)」って少し難しそう…?

いえいえ、QuizKnockと一緒にクイズで楽しく紐解いてみると、  
驚きと発見が連続するはず! 身体の仕組みを楽しく学べるクイズ  
など、驚きと発見が詰まった特別プログラム。専門的な知識は不要  
です! 自分の身体の意外な一面を楽しく知ってみませんか?

出演者や内容は予告なく変更になる場合がございます。

申込期間:

2026年4月8日(水)～5月15日(金)正午 申込はQRコードから

※抽選結果の配信は5月20日以降を予定しております

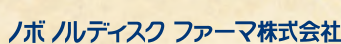


市民公開講座 運営事務局

TEL : 075-231-6357 FAX : 075-231-6354 Email : shimin\_icejes2026@c-linkage.co.jp

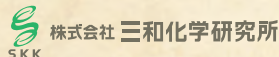
●協賛

〈ゴールドスポンサー〉

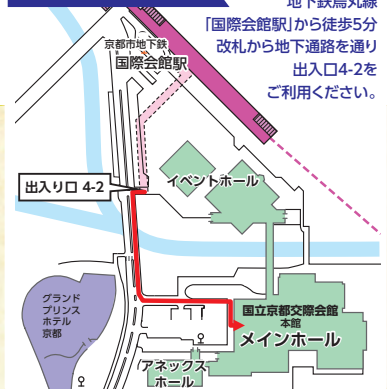


〈エメラルドスポンサー〉

〈シルバースポンサー〉



最寄駅からのアクセス



地下鉄烏丸線  
「国際会館駅」から徒歩5分  
改札から地下通路を通り  
出入口4-2を  
ご利用ください。

●共同主催:国際内分泌学会、一般社団法人日本内分泌学会、日本学会議 ●後援:京都府、京都市、京都文化交流コンベンションビューロー、京都新聞

## 第3回「海洋生物と気候変動：考えるべき倫理」



日時：令和8年6月7日（日）13:00~16:00

方法：オンラインのみ

### 主催・共催・後援

主催：基礎生物学委員会・統合生物学委員会  
合同海洋生物学分科会

共催：地球惑星科学委員会、食料科学委員会  
水産学分科会、自然史・古生物分科会

後援：生物科学学会連合、日本地球惑星科学  
連合、環境省、文科省

### 趣旨

「考えるべき倫理」については、気候変動の影響を受けた海洋生物保護における人為的介入に対する倫理的な課題を議論します。遺伝的操作や移動分散、ブルーカーボンに関連した深海投棄などの技術的解決策がもたらす長期的な影響とリスクに焦点を当て、特に、技術的手法が必要とされる緊急事態とそのリスクのバランスをどう取るかを探ります。

### 次第

13:00-13:10 開会挨拶・開催趣旨説明（10分）

日本学術会議連携会員・海洋生物学分科会委員長（原田 尚美）

13:10-14:40 基調講演（90分）

福永 真弓（東京大学）「見知らぬ海と生きる：創造的介入の時代の倫理」

長谷川 健司（東京外国語大学）「気候変動下のサンゴ礁保全における人為的介入の思想系譜と現在——Assisted Evolutionの言説をめぐって」

藤井 麻衣（三菱UFJリサーチ&コンサルティング）「海洋CDRとしてのブルーカーボン大規模養殖・深海貯留の可能性と課題：法政策の視点から（仮）」

14:40-14:50 休憩（10分）

14:50-16:00 パネルディスカッション（70分）

テーマ：「人為的介入と倫理」パネリスト：基調講演者＋モデレータ（安田仁奈）

16:00 閉会挨拶 日本学術会議副会長（日比谷 潤子）

参加申し込み方法：以下のフォームから登録をお願いします

<https://forms.gle/jwAAB5zhhF33Qsd87>

問い合わせ先：原田 尚美 [naomi.harada@aori.u-tokyo.ac.jp](mailto:naomi.harada@aori.u-tokyo.ac.jp)

安田 仁奈 [27Yasuda@ecc.u-tokyo.ac.jp](mailto:27Yasuda@ecc.u-tokyo.ac.jp)

日本学術会議 公開シンポジウム

# レジリエンスを高める 生体医工学の最前線

レジリエンスとはダメージに対して回復・適応する生体本来の力のことです。最近、その力を適切な刺激で引き出す治療が注目されています。本シンポジウムではレジリエンスを高める生体医工学の最新の事例紹介とともに今後の方向性を議論します。

日時 2026年6月7日(日) 会場 トークネットホール仙台(仙台市民会館) 大ホール  
10:30~12:00 (仙台市青葉区桜ヶ岡公園4-1)

参加無料  
事前申込不要

## プログラム

座長：松本 健郎 名古屋大学  
朔 啓太 国立循環器病研究センター

### 10:30~10:35 開会挨拶・趣旨説明

松本 健郎 日本学術会議第三部会員, 生体医工学分科会委員長, 名古屋大学・客員教授

### 10:35~10:40 背景説明

革新的生体医工学の創成~ME研究推進委員会からの提言

原口 亮 兵庫県立大学・教授

### 10:40~11:40 レジリエンスを高める生体医工学研究事例紹介

#### 1) クローズドループ神経調節による運動機能回復

小野 弓絵 明治大学理工学部・教授

#### 2) 血液凝固のレジリエンス~循環器系人工臓器治療の後天性von Willebrand症候群発症メカニズム

白石 泰之 東北大学加齢医学研究所・准教授

#### 3) レジリエンスを高めるニューロモジュレーション

高橋 宏知 東京大学大学院情報理工学系研究科・教授

#### 4) 膝関節レジリエンス向上を目指したインテリジェントインソールの開発

荻原 直道 東京大学大学院理学系研究科・教授

### 11:40~11:55 総合討論

テーマ：レジリエンスを高める生体医工学の最前線

パネリスト：原口 亮, 小野 弓絵, 白石 泰之, 高橋 宏知, 荻原 直道

### 11:55~12:00 閉会挨拶

田中 真美 日本学術会議第三部会員, 東北大学副学長

日本学術会議公開シンポジウム

# 研究者養成から社会実装人材へ 博士教育の再設計

一般参加  
可能

2026 **6.10** [Wed.]

13:00-17:00

事前申込制  
参加費無料

日本学術会議講堂 (東京都港区六本木 7-22-34)

オンラインでの参加も OK  
ハイブリッド開催

主催：日本学術会議第三部理工系博士人材育成分科会

後援：公益社団法人日本地球惑星科学連合・公益社団法人応用物理学会・公益社団法人日本船舶海洋工学会・公益社団法人日本化学会

公益社団法人化学工学会・一般社団法人日本機械学会・一般社団法人日本数学会・一般社団法人日本物理学会

一般社団法人日本航空宇宙学会・一般社団法人資源・素材学会

協賛：一般社団法人電子情報通信学会

総合司会 関根 千津 | 日本学術会議連携会員 / 合同会社 RiseWave 啓代表

13:00 - 13:10 シンポジウム開催にあたって

沖 大幹 | 日本学術会議第三部会員 / 東京大学大学院工学系研究科教授

13:10 - 13:40 基調講演

「大学院教育改革で目指す博士人材像」

石橋 晶 | 文部科学省高等教育局大学振興課長

13:40 - 14:10 招待講演

「博士人材は、なぜ持続的な成長に必要なのか」

藤井 輝夫 | 東京大学総長

14:10 - 14:40 招待講演

「博士の「質」保証に向けて  
—越境する知と共創のデザイン—」

君塚 信夫 | 日本学術会議連携会員  
九州大学ネガティブエミッションテクノロジー研究センター特任教授

14:40 - 15:10 招待講演

「数学・数理科学専攻若手研究者のための  
異分野・異業種研究交流会」

小園 英雄 | 日本学術会議第三部会員  
早稲田大学基幹理工学部教授、東北大学数理科学共創社会センター教授

15:10 - 15:40 招待講演

「高度専門人材はいかに社会と接続されるべきか」

加茂 倫明 | 株式会社 LabBase 代表取締役 CEO

15:40 - 15:50 休憩

15:50 - 16:50 総合討論

ファシリテーター 堀 利栄 | 日本学術会議第三部会員  
愛媛大学大学院理工学研究科教授

パネリスト

君塚 信夫 | 日本学術会議連携会員  
九州大学ネガティブエミッションテクノロジー研究センター特任教授

小園 英雄 | 日本学術会議第三部会員  
早稲田大学基幹理工学部教授、東北大学数理科学共創社会センター教授

加茂 倫明 | 株式会社 LabBase 代表取締役 CEO

関谷 毅 | 日本学術会議第三部会員  
大阪大学産業科学研究所教授

16:50 閉会挨拶

奥村 幸子 | 日本学術会議第三部会員 / 日本女子大学理学部数物情報科学科教授

PROGRAM



お問い合わせ：  
日本学術会議  
第三部理工系博士人材育成分科会  
dai3gakujutsusympo260610@gmail.com

申し込み：  
<https://forms.gle/xNRUnZMY4RwiMjvu6>  
締め切りは、2026年6月8日(月)

ウェブ視聴接続先は、前日までに申し込みいただいたメールあてにお送りします。また、シンポジウム開催後、一定期間動画配信いたします。お申込みいただいたメールあてにリンクをお送りしますので、当日視聴できない方も、お申込みください。



公開シンポジウム

「生物の多様性と未来をつなぐ育種学ウェビナーシリーズ  
【第5回】育種成果の社会への橋渡し－新品種の普及と制度の課題－  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会育種学分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和8（2026）年6月11日（木）12：00～13：30
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

気候変動や人口動態の変化、食料安全保障の課題が顕在化する中、「育種」は安定した食料生産や社会課題の解決、さらには地球環境の保全に直結する重要な領域である。本ウェビナーシリーズでは、育種分野の第一線の専門家を招き、現場の課題から人材育成、知的財産、社会との関わりに至るまで、多角的な議論を行ってきた。これまでに、水産・作物をテーマとした第1回、畜産分野の育種と次世代人材の育成に焦点を当てた第2回、遺伝資源と持続可能な社会を扱った第3回、ゲノム編集技術を用いた品種育成について議論した第4回を実施している。これらに続く最終回となる第5回では、「育種成果の社会への橋渡し－新品種の普及と制度の課題－」をテーマとし、育成者権をめぐる最近の動向や海外持ち出し問題、品種登録時における特性審査業務の実際について話題提供を受け、議論を行う。

9. 次 第：

挨拶

12:00 開会の挨拶

矢野 昌裕（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人農業・食品産業  
技術総合研究機構非常勤顧問）

12:05 「種苗法の概要」

大野 善之（農林水産省輸出・国際局知的財産課種苗室次席審査官）

12:45 「特性調査業務の概要」

三國 誉征（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構種苗管  
理センター試験・検査部特性調査業務課）

13:25 閉会の挨拶

磯部 祥子（日本学術会議第二部会員／東京大学農学生命科学研究科教  
授）

進行

矢野 昌裕（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人農業・食品産業  
技術総合研究機構非常勤顧問）

磯部 祥子（日本学術会議第二部会員／東京大学農学生命科学研究科教  
授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

AI

for Chemical Sciences

## プログラム

司会：山本 浩史（日本学術会議連携会員、分子科学研究所教授）

13:10 開会挨拶

**渡辺 芳人**（日本学術会議連携会員、分子科学研究所所長）

13:25 化学委員会報告及び趣旨説明

**岡本 裕巳**（日本学術会議第三部会員、分子科学研究所名誉教授）

14:00 「AI、ロボット時代の化学研究と人材育成」

**一杉 太郎**（日本学術会議連携会員、東京大学大学院理学系研究科教授）

14:30 「企業の開発研究におけるAI（仮）」

**森田 秀和**（株式会社日立製作所  
公共システム事業部公共基盤ソリューション本部 本部長）

15:00 休憩

15:20 「創薬標的分子の探索AI」

**難波 里子**（名古屋大学高等研究院・大学院情報学研究科特任助教）

15:35 「創薬におけるAI研究とAI人材育成」

**山西 芳裕**（名古屋大学大学院情報学研究科教授、  
愛知県がんセンター研究所異分野融合研究開発分野分野長）

16:00 「科学研究におけるAIに関する国の取り組み（仮）」

**服部 正**（内閣府科学技術・イノベーション推進事務局参事官、  
文部科学省研究振興局参事官）

16:30 総合討論

**（司会）鈴木 朋子**（日本学術会議第三部会員、株式会社日立製作所  
専門理事／研究開発グループ技師長）

17:10 閉会

開催日 2026 **6/11** Thu.

開催方法 ハイブリッド開催

開催場所 分子科学研究所 研究棟201号室  
愛知県岡崎市明大寺町西郷中38番地

本会議は、日本学術会議化学委員会・化学企画分科会、分子科学研究所、及び日本化学会戦略企画委員会の合同開催会議として毎年開催し、化学分野における様々な重要課題を取り上げて議論し提言、見解等を発出してきました。今回は、近年急速な発展を遂げているAIに関し、化学及び周辺分野にどのような効果を及ぼすか、どのように対応していくか、などの点について、広い観点から議論します。教育や研究の現場、その論文成果の取りまとめ等において、今後AIが不可欠な手段となると考えられており、化学の関連研究分野のどのような場面で、何にAIを導入して取り組むか、問題点も含めて将来を見据えた議論が必要となってきています。今回のシンポジウムでは、実際の大学等での先端研究分野、企業の研究開発分野でのAIの活用の事例、それに関連する教育・人材育成について、また行政が行なっている取り組みに関しても理解を深め議論する場を設定します。本会議は、単に化学、サイエンスに関わる議論をするものではなく、様々な立場の方々を巻き込んで、我が国の科学の振興にうねりを作ることのできる場を創ることを目指します。

## 主催

 日本学術会議化学委員会、化学委員会化学企画分科会

 分子科学研究所 大学共同利用機関法人自然科学研究機構分子科学研究所

 日本化学会 公益社団法人日本化学会戦略企画委員会

**申込方法** 下記 URL よりお申込みください。  
<https://registration.ims.ac.jp/shohei2026/registration>
**締切** 現地参加：6月4日（木） オンライン参加：6月8日（月）

**お問合せ** 山本 浩史（分子科学研究所 研究総主幹 教授） [ims-shohei2026@ims.ac.jp](mailto:ims-shohei2026@ims.ac.jp)


公開シンポジウム

「動物の繁殖の研究ってこんなに広がるの！？～生命の連続性と栄養の関係～」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会畜産学分科会、公益社団法人日本繁殖生物学会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和8（2026）年6月13日（土）13：00～14：40
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会の開催：開催予定なし
8. 開催趣旨：

現代社会において、「食と健康」への関心はかつてないほど高まっています。しかし、個体の栄養状態が単に本人の健康を維持するだけでなく、次世代の生命の誕生、発育、さらにはその後の繁殖能力にまで深く関与しているかについては、一般に十分に理解されているとは言えません。

本シンポジウムでは、畜産学及び繁殖生物学の研究成果が、安全な食料供給（畜産物の生産性向上）に直結するだけでなく、将来の世代の健康や能力を規定する重要な指針となることを示すとともに、家畜及び実験動物を用いた繁殖科学の最前線から、「生殖と栄養」をキーワードに、生命の連続性を支えるメカニズムを紐解きます。講演では、3人の専門家により、卵子に含まれる微量な脂質から、出生後の母乳を通じた栄養摂取、そして胎子期の環境が将来の生殖機能に及ぼす影響まで解説していただき、最新の知見を共有することで、食料生産の効率化のみならず、ヒトの生殖医療や次世代の健康増進に寄与する学術的・社会的意義を提示することを目的とします。
9. 次 第：

13：00 開催の挨拶  
大澤 健司（公益社団法人日本繁殖生物学会理事長／宮崎大学農学部獣医学科産業動物臨床繁殖学研究室教授）

13：05

座長：木村 直子（日本学術会議第二部会員／山形大学大学院農学研究科教授）

講演「ほ乳動物卵に蓄えられた脂肪の不思議」

塚本 智史（国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構安全管理部課長）

13：35

座長：尾畑 やよい（東京農業大学生命科学部バイオサイエンス学科教授）

講演「哺乳類を特徴づける乳腺と母乳の役割」

永岡 謙太郎（東京農工大学農学研究院教授）

14：05

座長：白砂 孔明（東京農業大学農学部動物科学科教授）

講演「子牛の未来を左右する乳牛の妊娠期の栄養」

川島 千帆（帯広畜産大学生命・食料科学研究部門教授）

14：35 総括

栗田 浩（日本学術会議連携会員／公益財団法人小野薬品がん・免疫・神経研究財団  
理事長）

14：40 閉会

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

# 脳と摂食嚥下のクロストーク

## ～健康長寿社会実現に向けた未来への道標～

共催：日本学術会議 歯学委員会 臨床系歯学分科会，病態系歯学系分科会，基礎系歯学分科会  
公益社団法人日本補綴歯科学会

後援：日本生命科学アカデミー

令和8年

6月21日(日) 13:50～15:50

会場

ウインクあいち

(愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4-38)

一般参加 無料(事前登録不要) 学術大会のその他プログラムへの参加は登録が必要です

口腔機能の低下は、低栄養のみならず、生きる意欲やQOLの低下、さらには心身機能全体の減弱を引き起こします。しかし、その制御に関わる「脳と摂食嚥下」の関連メカニズム(クロストーク)は、いまだ多くの謎に包まれています。本シンポジウムでは、基礎・臨床の最前線で活躍する研究者を招聘し、最新の知見を共有するとともに、未解明な課題を整理し、超高齢社会における健康長寿実現への道標となる方策について議論を深めます。

### 開会挨拶

村上 伸也 (日本学術会議第二部会員/大阪大学名誉教授)  
大久保 力廣 (公益社団法人日本補綴歯科学会理事長/鶴見大学歯学部歯学科口腔リハビリテーション補綴学講座教授)

### 講演

座長：馬場 一美 (日本学術会議連携会員/昭和医科大学教授)  
松山 美和 (日本学術会議連携会員/徳島大学大学院医歯薬学研究部教授)

### 『認知機能と口腔機能の相関に関する探索的研究(ECCO)プロジェクト』

笛木 賢治 (東京科学大学大学院医歯学総合研究科教授)

### 『高齢者の歯の喪失はアルツハイマー病の起因となる？』

後藤 多津子 (日本学術会議連携会員/東京歯科大学歯科放射線学講座教授)

### 『認知症の口腔機能と食行動』

池田 学 (大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室教授)

### 総合討論

進行：馬場 一美 (日本学術会議連携会員/昭和医科大学教授)  
森山 啓司 (日本学術会議第二部会員/東京科学大学大学院医歯学総合研究科顎顔面矯正学分野教授)

討論者：笛木 賢治 (東京科学大学大学院医歯学総合研究科教授)  
後藤 多津子 (日本学術会議連携会員/東京歯科大学歯科放射線学講座教授)  
池田 学 (大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室教授)  
松山 美和 (日本学術会議連携会員/徳島大学大学院医歯薬学研究部教授)

### 閉会挨拶

樋田 京子 (日本学術会議第二部会員/北海道大学大学院歯学研究院口腔病態学分野血管生物分子病理学教室教授)

コーディネーター：江草 宏 (日本学術会議連携会員/東北大学大学院歯学研究科教授)

問い合わせ：公益社団法人日本補綴歯科学会第135回学術大会 運営事務局 E-mail: jps135@kwcs.jp

日本学術会議公開シンポジウム

若手アカデミー

# 15年間の活動とこれからの展望

13:00- 開会挨拶 三枝信子(日本学術会議副会長)

13:20- 第1セッション 若手アカデミー活動の共有

- 若手アカデミーの成立経緯と黎明  
駒井 章治(東京国際工科専門職大学)
- 学術界の若手として  
住井 英二郎(東北大学) 高瀬 堅吉(中央大学)
- 国際若手学者ネットワークでの日本代表として  
新福 洋子(広島大学) 門田 有希(岡山大学)
- 国内若手世代の学術界人として  
岸村 顕広(大阪公立大学) 南澤 孝太(慶應義塾大学)

15:10- 休憩

15:20- 第2セッション これからの若手アカデミーへの期待

- 公開鼎談 若手アカデミー外からの期待  
西田 亮介(日本大学) 枡 太一(同志社大学)  
司会 木村 草太(東京都立大学)
- パネルディスカッション  
若手アカデミーアルムナイからの期待  
狩野 光伸(岡山大学) 中西 和嘉(物質・材料研究機構)  
松中 学(名古屋大学) 杉本 舞(関西大学)  
司会 標葉 隆馬(慶應義塾大学)

16:50- 閉会挨拶 小野 悠(豊橋技術科学大学)

日本学術会議講堂(東京都港区六本木7-22-34)  
オンライン配信ハイブリッド開催

令和8年

6月22日(月) 13:00~17:00

要事前申込・参加無料 <https://forms.gle/euNMDzMkEgTyR7N7A>

主催 若手アカデミー 問い合わせ先 kawagucci @ jamstec.go.jp

# 安全工学シンポジウム2026

## イノベーションと安全

「安全工学シンポジウム2026」は、安全工学に関する各分野における問題点提起、優れた研究成果の講演と技術交流により、安全工学および関連分野の発展に寄与することを目的とし、特別講演をはじめオーガナイズドセッション、パネルディスカッション、一般講演等の開催が予定されております。

[日時] 2026年6月24日(水)～6月26日(金)

[会場] 日本学術会議／ハイブリッド開催

特別講演 6月24日(水) 13:10～

イノベーションを可能にする安全—機械安全の視点から—

講演者：福田 隆文氏(長岡技術科学大学名誉教授)

### パネルディスカッション

PD-1 次世代の安全教育

### オーガナイズドセッション

- |  |   |
|--|---|
| OS-1 AIのイノベーションと安全の両立を考えるためのリスクガバナンス         | OS-10 研究開発における化学物質火災のリスク                            |
| OS-2 安全と安心感                                  | OS-11 多様化する労働環境に対応した安全教育と評価方法                       |
| OS-3 火薬研究のSDGsへの挑戦                           | OS-12 先進技術システムのリスクアセスメントの課題と対応の考え方                  |
| OS-4 自動車の自動運転の現状と展望                          | OS-13 電力需要設備におけるスマート保安に関する最新動向                      |
| OS-5 安全レベルの向上を目指して<br>既存の法体系の見直しとより良い安全文化の構築 | OS-14 レジリエンスエンジニアリング<br>—これまでの20年、これからの20年—         |
| OS-6 提案されている「新しい安全工学」に則った<br>マネジメント手法の1提案    | OS-15 墜落・転落災害に関する安全問題と防止対策                          |
| OS-7 信頼性・安全性の分野横断的将来展望                       | OS-16 老朽・遺棄化学兵器廃棄事業の節目を見据えて                         |
| OS-8 木造化・木質化された建築物の火災安全性のあり方                 | OS-17 近年に発生した災害の現状・防災まちづくりに係る<br>取組と今後の地域レジリエンスの在り方 |
| OS-9 家電など身近な製品での発火事故につながる<br>故障を考える          |   |

### 一般セッション

- |   |  |
|---|--|
| GS-1 自然災害(地震・水・土砂災害)と安全                 | GS-4 建設に関する安全性と信頼性<br>(計画、設計、施工、防災など)                  |
| GS-2 安全と人間性、社会特性                        | GS-5 燃焼、火災、爆発に関する安全性                                   |
| GS-3 システムの安全性と信頼性/機械に関する<br>安全性と信頼性/その他 | GS-6 電気、電子および情報に関する安全性と信頼性<br>(コンピュータ関連システム、セキュリティを含む) |

主催：日本学術会議 総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会

共催：日本機械学会、他30学協会

#### 参加方法

事前web申し込み(参加は無料ですが、ホームページから参加申し込みが必要です。)

<https://www.gakkai-web.net/anzen/reg/index.html>

#### 予稿集販売

webにて申し込み(一般5,000円、学生2,000円)(PDFダウンロード版となります)

問合先事務局

一般社団法人 日本機械学会  
(事務局代行・トヨー企画株式会社)

[E-mail] [anzen@gakkai-web.net](mailto:anzen@gakkai-web.net)  
<https://www.anzen.org/index.html>

国際昆虫学会議の記念誌が伝える  
昆虫科学の最前線



公開シンポジウム

# 昆虫科学は

# おもしろい

第16回日本昆虫科学連合・日本学術会議共催シンポジウム

現在と未来の昆虫学者

虫好きにも聞いてほしい、

昆虫科学の  
おもしろい話

2026年6月27日 土 13:00~17:00

オンライン開催

参加無料  
事前登録

総合司会 木内 隆史 (日本昆虫科学連合事務局長、東京大学大学院農学生命科学研究科准教授)

## 活動報告

日本学術会議農学委員会応用昆虫学分科会活動報告

池田 素子  
(日本学術会議連携会員、応用昆虫学分科会委員長、名古屋大学大学院生命農学研究科教授)

日本昆虫科学連合活動報告

阿部 芳久  
(日本学術会議連携会員、日本昆虫科学連合代表、九州大学大学院比較社会文化研究院教授)

第27回国際昆虫学会議記念誌の紹介

大村 和香子  
(日本昆虫科学連合編集幹事、京都大学生存圏研究所教授)

## 講演

座長 大村 和香子 (京都大学生存圏研究所教授)

「生物振動学：昆虫の振動コミュニケーションから害虫防除まで」  
高梨 琢磨 (福島大学食農学類准教授)

「昆虫の多様性とすごい能力をささえる共生微生物」  
深津 武馬 (日本学術会議連携会員、産業技術総合研究所首席研究員)

座長 志賀 向子 (日本学術会議連携会員、大阪大学大学院理学研究科教授)

「海を越えて飛んでくる害虫たちを迎え撃つ！～飛来性害虫防除の最前線」  
真田 幸代 (農業・食品産業技術総合研究機構研究領域長補佐)

「社会性昆虫研究の最前線：エピジェネティック遺伝が解き明かす『繁殖しない個体』の正体」  
松浦 健二 (京都大学大学院農学研究科教授)

総合討論 座長 日本 典秀 (日本昆虫科学連合副代表、京都大学大学院農学研究科教授)

閉会挨拶 日本 典秀 (京都大学大学院農学研究科教授)

参加登録期限は6月26日(金)13:00

お申込みはこちら  
定員：1000名



日本昆虫科学連合HPからもお申込み可能です。  
<http://www.insect-sciences.jp/>



問い合わせ先

contact@insect-sciences2.sakura.ne.jp

日本昆虫科学連合事務局 木内 隆史 (東京大学大学院農学生命科学研究科准教授)

# 第31回 史料保存利用問題シンポジウム

## アーキビスト養成環境の現状と課題

- 専門職としての広がりのために -

日時：2026年6月27日(土) 13:30~17:30

会場：一橋大学東2号館2201教室（オンライン併用）

〈参加費無料／先着順受付〉オンライン参加者は事前申込／会場来場者は事前申込不要  
事前申込はこちらから <https://forms.gle/pH1TLLznjajZ4RGY8>



総合司会：大橋 幸泰（日本学術会議会員 早稲田大学教授）  
開会挨拶：若尾 政希（日本歴史学協会委員長 一橋大学名誉教授）

### 報告

栃木 智子（国立公文書館統括公文書専門官（総括等担当）付上席公文書専門官）

国立公文書館におけるアーキビスト養成の取り組み

藤實 久美子（国文学研究資料館教授・総合研究大学院大学教授）

アーカイブズ・カレッジにおけるアーキビスト養成

加藤 諭（東北大学史料館教授）

各大学院におけるアーキビスト養成カリキュラムについて

香室 結美（熊本大学特任助教）

民間アーカイブズのとりくみー公害アーカイブズを中心にー

### パネルディスカッション

パネリスト：藤實久美子／加藤 諭／香室 結美

司会：新井浩文（日本歴史学協会史料保存利用特別委員会委員長）

太田尚宏（日本歴史学協会国立公文書館特別委員会委員長）

閉会挨拶：芳賀 満（日本学術会議会員 東北大学教授）

主催：日本歴史学協会・日本学術会議史学委員会

日本学術会議史学委員会アーカイブズと社会に関する分科会

後援：全国歴史資料保存利用機関連絡協議会・日本アーカイブズ学会